

奥四万十で頑張る！！

～四万十ヒノキのブランド化の巻～



高知県のヒノキは、四万十川流域を含む県西部に豊富に存在しています。四万十川流域に位置する四万十市、四万十町、中土佐町、三原村の4市町村では、この流域にあるヒノキをブランド化するため「四万十ヒノキブランド化推進協議会」を平成23年度に設立し、ブランド化を図るために取り組みをすすめています。

先般（平成29年11月14日～15日）、当協議会では、「高知県産業振興アドバイザー制度」を利用して、古くから土佐材を活かした家具デザインや商品開発など高知県の木材産業の振興にご協力をいただいている大阪の建築家の方（ダイシンインテリアデザイナー級建築士事務所 代表 式田完氏：大阪中央区）に来高いただき、協議会の中での講演や四万十町内の木材加工施設や木材センターを視察していただきました。

講演の中では、設計士として自ら国産材を使った家づくりの事例を紹介し、「生産者側での発想でなく、マーケット側の発想でものづくりをしてほしい」と力説されました。



講演される式田アドバイザー

四万十町役場にて H29.11.15

○協同組合高幡木材センター

協同組合高幡木材センター（代表理事 伊藤訓新氏）は、四万十ヒノキの無節の役物（見える場所に使われる、柱や住宅の内装用の枠材や板材）などの製品の競りを行う市を、毎月開催しています。

大阪の建築家の方が来られた時は、競り市が終わった後であったため、ヒノキ製品が市の時に比べると少量でありましたが、それでも「このセンターにあるヒノキ製品の品揃えは、多く素晴らしい」と、感嘆されておりました。

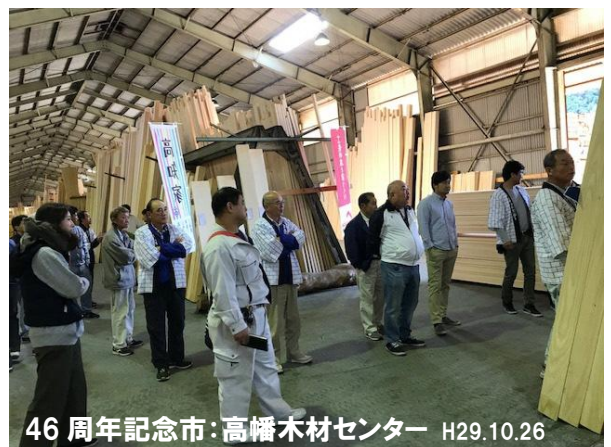
「このセンターにあるヒノキ製品の品質の良さや豊富な品揃えをもっと外向けにPRすれば良いですね」と助言をいただきました。

高幡木材センターでは、去る10月26日に「46周年記念市」が開催されました。



高幡木材センターにて：式田アドバイザー

H29.11.14



46周年記念市：高幡木材センター H29.10.26

このときは、県内外から大勢の買い方さんに来ていただき、遠くは名古屋方面からも脚を運んでいただきました。名古屋の木材会社の方にお聞きすると「これだけヒノキの造作材が揃うのは、高知県しかない。高知県の造作材は品質が良く綺麗。遠くても、このセンターへ来るだけの価値はあります」と述べられました。

このように実際に四万十町まで来られた県外の木材関係者の方は、四万十ヒノキの良さを認めていただけます。今後さらに、行政と民間事業者と連携をして四万十ヒノキのPRをしていきたいと思えます。(by 振興課長)



特集！！ハルちゃんが行く！！

～四万十町森林組合 大正集成材工場展示場～

四万十町森林組合には、森林整備を主に行う3つの支所と本所の他に、製品を製造する大正集成材工場があります。大正集成材工場では、四万十ヒノキを材料に、集成材やそれを使った家具類である「ヒノキカグ」を作っており、地域で生産されるヒノキ材の付加価値化に大きく貢献しています。このたび、工場に隣接して、製品の展示場が建てられましたので、ご紹介します。



ヒノキカグ

四万十町森林組合大正集成材工場が作る「ヒノキカグ」は、木の良さを前面に出した椅子やテーブル、生活雑貨、おもちゃなど、幅広い品構えです。内装材も製造しており、県内外の公共建築物等にも利用されています。無垢材^{※1}を使ったものだけでなく、製材の際に生じた端材や曲がり材を、接着したり接ぎ合わせて無駄なく利用する集成材の製品を多く製造しています。



※1
接ぎ合わせたりせず、丸太を製材して1本の木から採れた材をそのまま使用したもの

「ヒノキカグ」の商品。優しい手触りで子供用にも人気です。



集成材の製造の様子。

左写真：短い板を接ぎ合わせて長い板にします。中央の接ぎ目はフィンガージョイントと呼ばれ、指のようにギザギザに加工した部分に接着剤を塗って接ぎ合わせます。

右写真：フィンガージョイントを施した複数の長い板に接着剤を塗り、圧力をかけて面状に接着します。これが家具等に加工されます。

展示場（H29年12月竣工予定）

「高知県産業振興推進総合支援事業」を利用して、四万十ヒノキをふんだんに使った展示場が建ちました。まだ内装作業中ですが、中を見せていただきました。商談や販売促進、ワークショップ、四万十ヒノキのモデル建築等として活用する予定で、四万十ヒノキの活性化に繋がると期待されます。

